



山のホテル庭園ここを CHECK!



**① ゴヨウツツジ**  
敬宮愛子内親王のお印としてゴヨウツツジの花が用いられています。



**② 三本杉**  
実際には7本ありますが、見る角度によって大きな3本の杉に見える為、岩崎男爵の別邸時代から「三本杉」と呼ばれています。



**③ ビューポイント【富士山】**  
庭園からも富士山を眺めることができます。多くのお客様が、富士山をバックに記念写真を撮られています。



**④ バラ**  
2002年に向ヶ丘遊園から譲り受けたバラをはじめとする約100種500株のバラが6月と10月の年2回見頃を迎えます。



**⑥ サンショウバラ【箱根町の花】**  
富士山や箱根周辺にのみ分布する、フォッサマグナ要素植物のバラ。名前は木の姿がサンショウに似ている事に由来し、また分布域から「箱根薔薇」と言われています。



**⑦ ビューポイント【紅葉の小径】**  
ツツジ・シャクナゲで知られる庭ですが、そのみならず年間を通して、庭の魅力は尽きません。紅葉の秋には、この周囲一帯が黄色や赤へと色づき、その葉が敷き詰められると「赤い絨毯」の上を歩くかのような。



**⑧ マメザクラ**  
丘陵から山地の林縁や明るい林に生え、ほかのサクラよりも葉も花も小さいことが名前の由来です。富士山周辺に多いのでフジザクラとも呼ばれています。



**⑨ 西脇呉石氏の碑石**  
西脇氏は、書道の大家にして漢詩と南画の稀に見る才能の持ち主でした。西脇氏は箱根を愛し、ホテルに毎年訪れ、多くの詩編を読みました。この碑は、西脇氏の生誕100年を記念し、由縁の土地に造られた物です。



**⑤ ヤエゲラ**  
3,000株あるツツジの中でも、一番大きな株のヤエゲラ。高さ、直径ともに3メートル近くあり、その大きさに圧倒されます。



**⑩ プレミアムショップ&サロン・ド・テロザージュ**  
別邸時代、岩崎男爵が趣味のモーターボートを走らせ、この場所を棧橋、艇庫として使用し、その名残の石垣を見ることが出来ます。現在では、箱根を代表するティーサロンとなっています。

ホテルの庭園には岩崎男爵に関わるものが、今も残されています。

**① 見南山荘(けんなんそう)の碑**



「見南山荘」と記された碑は、男爵が大漢和辞典の編纂者で、漢学者の諸橋轍次氏につけてもらった別邸の名前。碑には1938年、別邸に赴いて講義をしたときの模様が歌われ、芦ノ湖の景観の素晴らしさなどが記されています。

**② ホテルとともに時を刻む「日時計」**



2009年4月、ホテル開業60年を記念して、別邸時代に使われていた日時計を復元させました。100年近い年月の間に失われた文字盤と針を造り直し、庭園のシンボルとして、ホテルの「時」を刻み始めました。

**③ 草木慰霊塔碑**



岩崎男爵が庭園を造成するため、幾多の樹木や灌木を伐採せざるを得ず、切り倒した草木のすべての霊に対して供養を施したいという思いから1937年(昭和12年)に建てられたものと伝えられています。

**④ ゴーマー・ウォータラー**



シャクナゲ園にある、日本で最初に輸入されたと言われる「ゴーマー・ウォータラー」。その存在は日本ツツジ・シャクナゲ協会にも認められました。